

**アドイン部分照合＋数量入力プログラム
for アシスタック Pro BHT-800
取扱説明書 第2版**



2012年 5月 1日
コンピュータ・アシスト株式会社

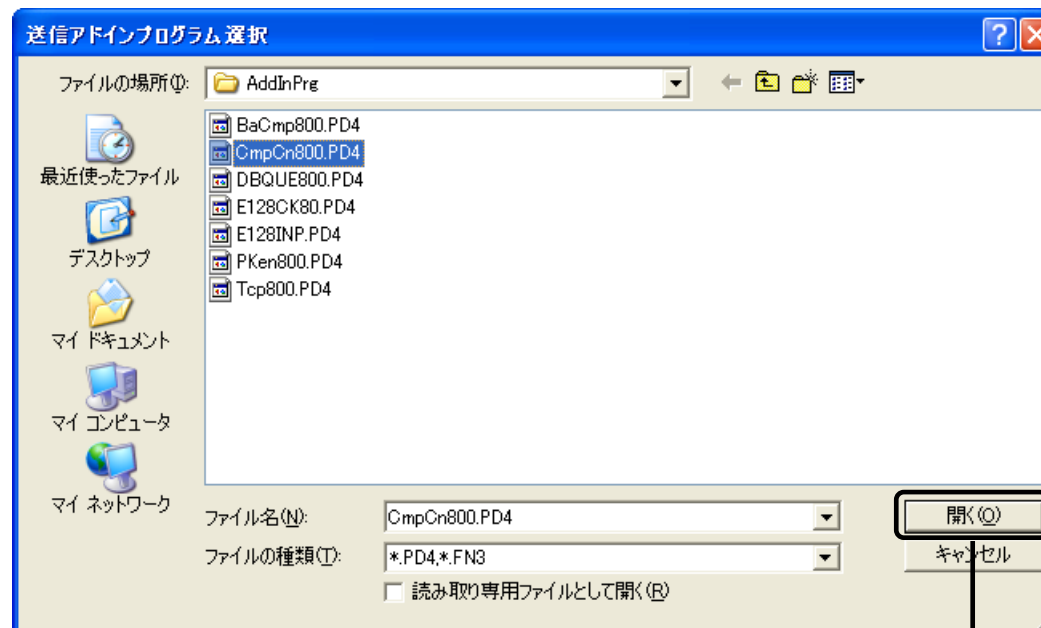


目次

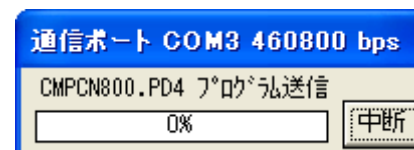
1 プログラムダウンロード	1
2 業務設定設定	3
2-1 データ区分	4
2-2 照合条件	7
1) 照合モード	8
2) 部分照合データ数	9
3) バーコード読取設定	9
4) 読取バーコードのユーザー定義	13
5) 文字列表示マスターファイル	23
2-3 データ保存	24
2-4 設定更新	26
2-5 業務更新	27
3 マスターファイル作成／送信	28
4 HTプログラム	30
4-1 1対1照合	31
4-2 1対N照合	32
4-3 入力／データ処理エラー表示	33
4-4 照合データ送信	34
4-5 マスターファイルダウンロード	35

1 プログラムダウンロード

アドイン照合+数量HTプログラム「CMPCN800.PD4」をBHT-900にダウンロードします。



CmpCn800.PD4 を
選択してクリック



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行



ファイル受信

通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth
4. #####. PD4
5. \$\$\$\$\$\$\$\$. PD4

M1 戻る **M2** 選択



ファイル受信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM3 460800 bps

CMPCN800.PD4 送信中

45%



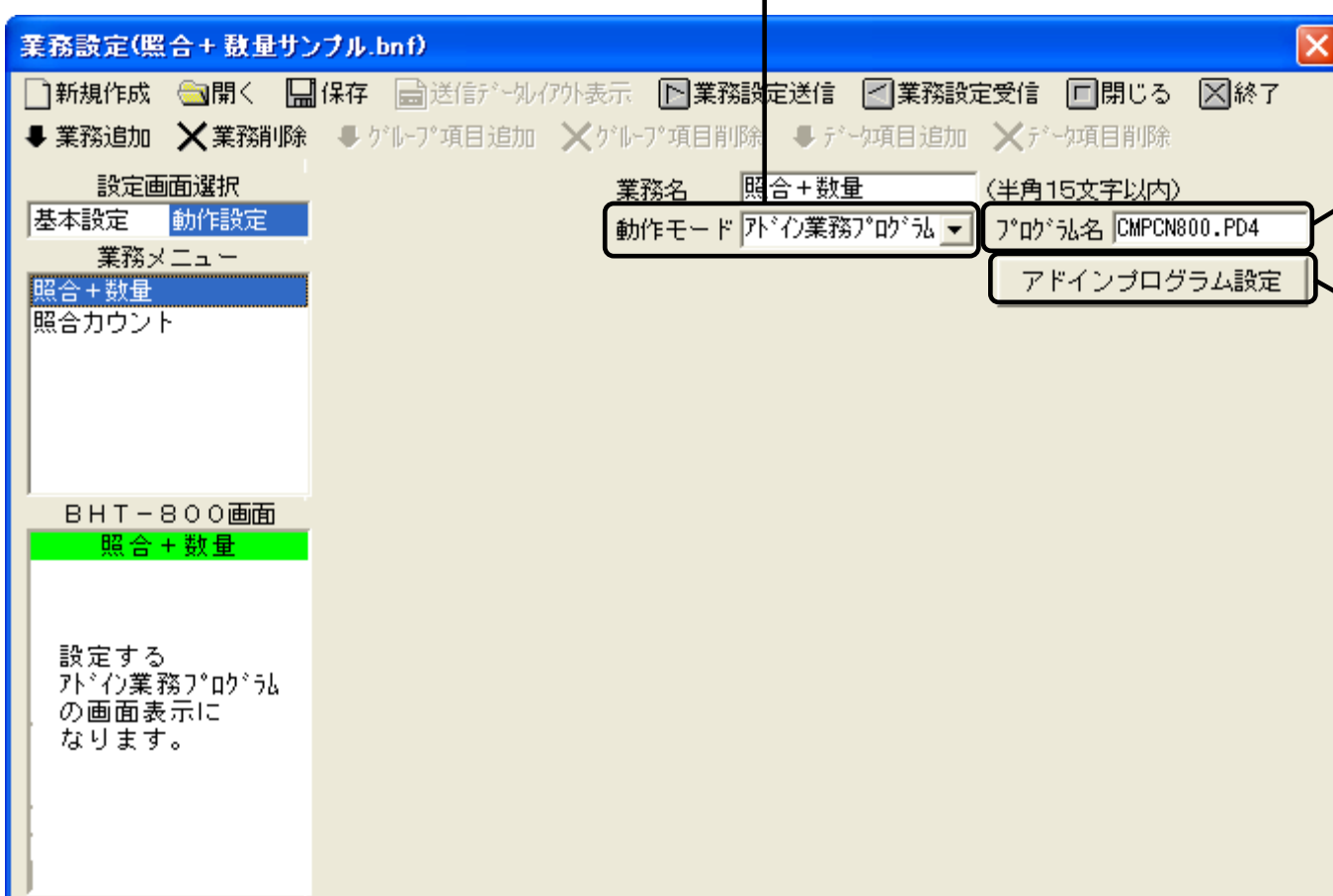
プログラム転送

正常終了

2 業務設定設定

動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「CMPCN800. PD4」を設定して、「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしアドイン照合+数量プログラム設定画面を表示してください。

「アドインプログラム」を選択



業務名 照合+数量 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム

プログラム名 CMPCN800.PD4

アドインプログラム設定

「CMPCN800. PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

業務設定(照合+数量サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ以外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

照合+数量

照合カウント

BHT-800画面

照合+数量

設定する
アドイン業務プログラムの画面表示になります。

2-1 データ区分

データ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

書式：<検索キー桁数>,<参照データ桁数>
設定桁数範囲： 1 ~ 99

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 サフリス表示)，日付(YYYY/MM/DD)，日付(YY/MM/DD)，日付(MM/DD)，時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示，横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 サフリス表示)のデータ入力桁数を、最大，最小で制限します。
バーコード	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルとフィールド情報を設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

・データ区分におけるバーコード読取設定

担当者 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ チェックデジット なし ☐ あり ☐ STF ☐ チェックデジット なし ☐ あり

☐ NW7 ☐ チェックデジット なし ☐ あり ☐ Code39 ☐ チェックデジット なし ☐ あり

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 3500 桁 最小 1 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 1 桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

データ選択 1 桁目から 4 桁

キャンセル 確定

「1 桁目から 4 桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1 桁目から 4 桁」がデータ区分のデータになります

「9999 桁目から 4 桁」と設定した場合は、「末尾から 4 桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	データ区分の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。

● 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
STF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能 (BHT-800Bのみ)
NW7	チェックデジット (モジュラス16) の設定可能
Code39	チェックデジット (モジュラス43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
QRコード	マイクロQR, QRモデル1, QRモデル2 (BHT-800Qのみ)
PDF417	マイクロPDF417, PDF417 (BHT-800Qのみ)
Data Matrix	正方形 Data Matrix, 長方形 Data Matrix (BHT-800Qのみ)
MaxiCode	BHT-800Qのみ
EAN・UPC Composite	共通商品コード, EAN-128, RSSのCOMPOSITEバーコード (BHT-800Qのみ)
ユーザー定義	2段バーコード, 3バーコード (BHT-800Qのみ) の読取設定など、ユーザー独自に読取設定 をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, , <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



2-2 照合条件

照合モード，部分照合データ数，項目名，バーコード読取を設定します。

1対1照合と1対N照合の選択

部分照合のデータ数を設定

ここをクリック

最大半角21文字の入力

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

書式：〈検索キー桁数〉, 〈参照データ桁数〉
設定桁数範囲： 1 ~ 99

照合OK後に数量入力画面になります。
動作モードが1対1照合の場合のみ設定します。
1対N照合の場合は表示しません。

照合+数量 照合プログラム設定(BHT-800)

データ区分
照合条件
データ保存
キャンセル
更新

動作モード 1対1照合 数量入力

部分照合データ数 0

照合元
項目名 照合元

☒ 文字列表示マスターファイルを使用する

検索データ選択 バーコードの 1 桁目から 13 桁

表示用マスターファイル MASTER.TXT

フィールド情報 13,20

照合先
項目名 照合先

☒ 数量入力

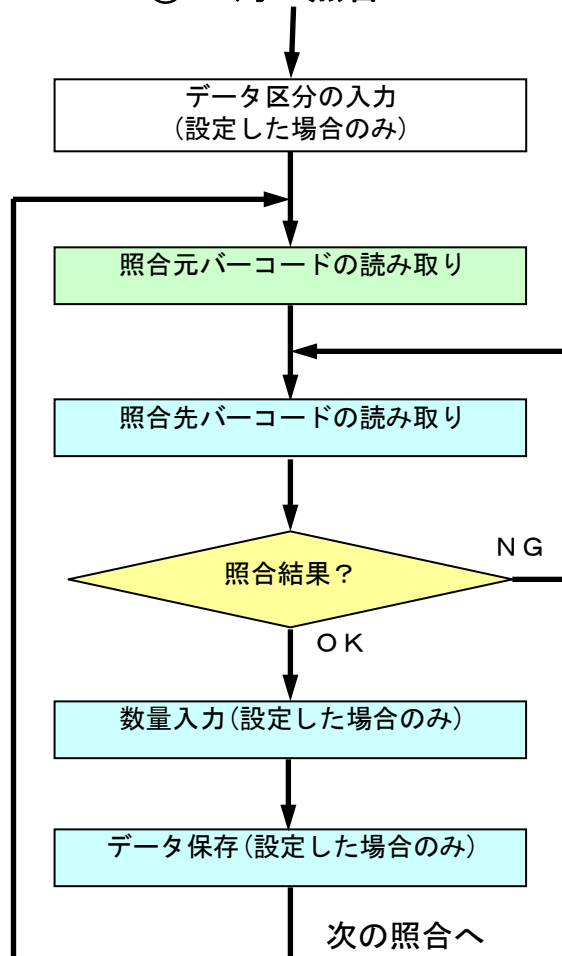
バーコード読取設定

バーコード読取設定

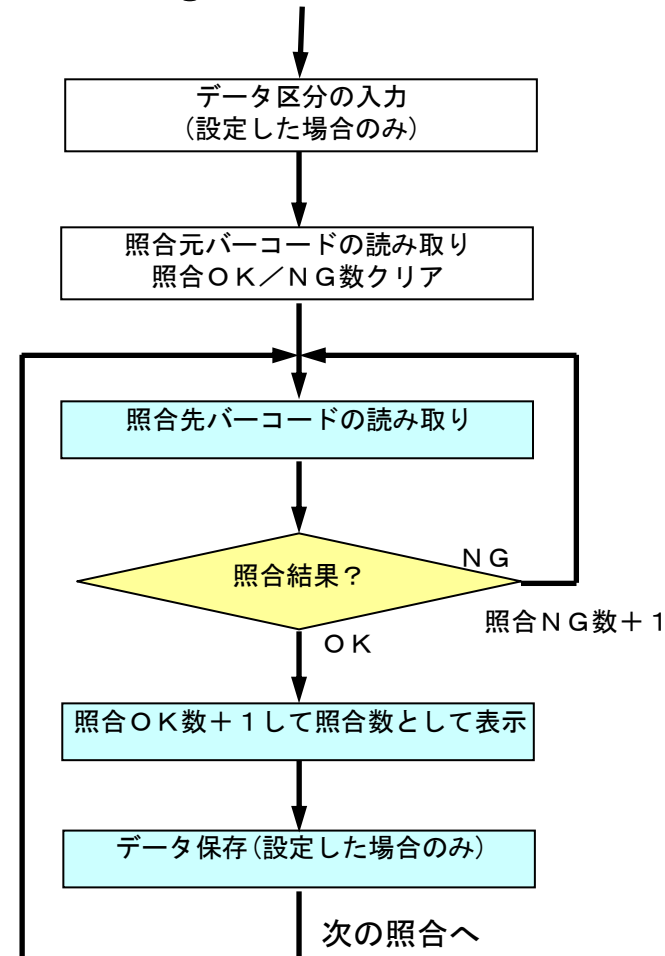
1) 照合モード

「1対1照合」と「1対N照合」の2種類あります。

① 1対1照合



② 1対N照合



2) 部分照合データ数


読み取ったバーコードデータの1部分を照合する部分照合のデータ数を最大5個まで設定できます。部分照合するデータ位置はバーコード読取設定画面において設定します。0を設定した場合は、読み取ったバーコード全体のデータで照合します。


●照合データ設定例

部分照合データを最大5個まで設定できます。設定した照合データが全て一致した場合に「照合OK」になります。

① 部分照合数2でデータフォーマットが固定長の場合

照合元バーコード： 9 9 9 9 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 9 9

照合元照合データ1： 6桁目から4桁 

照合元照合データ2： 12桁目から4桁 
比較する


照合先バーコード： 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0


照合先照合データ1： 1桁目から4桁

照合先照合データ2： 7桁目から4桁

② 部分照合数2でデータフォーマットがカンマ区切りの場合

照合元バーコード： 9 9, 1 2 3, 4 5 6, 7 8 9, 0 9 9

照合元照合データ1： データNo2 

照合元照合データ2： データNo4 
比較する

照合先バーコード： 1 2 3, 4 5 6, 7 8 9

照合先照合データ1： データNo1

照合先照合データ2： データNo3

③ 部分照合数0の場合

照合元バーコードデータと照合先バーコードデータを比較して、一致した場合に「照合OK」になります。

照合元バーコードの全データ 
比較する

照合先バーコードの全データ

3) バーコード読取設定

照合条件画面の「バーコード読取設定」ボタンをクリックし、「バーコード読取設定」画面において設定します。



① 部分照合データ数が0の場合の照合元／照合先のバーコード読取設定

照合元 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ 書籍コード ☐ STF ☐ 雑誌コード

☐ NW7 ☐ Code39 ☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 桁目から

チェックデータ

チェック方法

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

チェックデータ位置に「1桁目から」、チェックデータに「49」、チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「49」でなければ「データチェックエラー」を表示します。チェックデータ位置に「9999」を設定した場合は、末尾からチェックします。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
ITF, STF, NW7, Code39 のチェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコード照合の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除して照合データにします。照合元データ「123-45」と照合先データ「12345」を照合する場合に、削除文字に「-」を設定します。

② 部分照合データ数が1～5の照合のバーコード読取設定

・ 固定長フォーマットの場合

照合元 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ 書籍コード ☐ STF ☐ 雑誌コード

☐ NW7 ☐ Code39 ☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデータをデータに含めない

データフォーマット **固定長**

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法

照合元データ設定

照合データ	バーコードデータ
照合データ1	1 桁目から 13 桁
照合データ2	14 桁目から 13 桁
照合データ3	27 桁目から 13 桁
照合データ4	40 桁目から 13 桁
照合データ5	53 桁目から 13 桁

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

固定長を選択

固定長の場合のデータチェック設定

チェックデータ位置に「1 桁目から」、チェックデータに「1 2 3」、チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「1 2 3」でなければ「データチェックエラー」を表示し再入力になります。チェックデータ位置に「9 9 9 9」を設定した場合は、末尾からチェックします。

部分照合数が1～5に対応して照合データ1～照合データ5を表示します。

比較する照合データの対応

照合元	照合先
照合データ1	照合データ1
照合データ2	照合データ2
照合データ3	照合データ3
照合データ4	照合データ4
照合データ5	照合データ5

固定長の場合の照合データ設定

「1 桁目から 1 3 桁」と設定した場合は次のようになります。

1 桁目

▼

バーコードコード: 4 5 6 7 8 9

← 1 3 桁 →

この場合の照合データは、「1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3」になり、照合元照合データと照合先照合データを比較します。「9 9 9 9 桁目から 1 3 桁」と設定した場合は、「末尾から 1 3 桁」が照合データになります。

・カンマ／スペース／タブ記号／CR記号区切りフォーマットの場合

照合元 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット **カンマ区切り**

☒ データチェックを使用する

データNo チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法 **一致しなかったら入力エラー**

照合元データ設定

照合データ	データNo	バーコードデータ
照合データ1	<input type="text" value="1"/>	
照合データ2	<input type="text" value="2"/>	
照合データ3	<input type="text" value="3"/>	
照合データ4	<input type="text" value="4"/>	
照合データ5	<input type="text" value="5"/>	

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

カンマ区切り/スペース区切り/タブ記号区切り/CR記号区切りを選択

カンマ区切りの場合のデータチェック設定

「データNo1」, チェックデータ位置に「1桁目から」, チェックデータに「123」, チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「123」でなければ「データチェックエラー」を表示し再入力になります。

部分照合数が1～5に対応して照合データ1～照合データ5を表示します。

比較する照合データの対応

照合元	照合先
照合データ1	照合データ1
照合データ2	照合データ2
照合データ3	照合データ3
照合データ4	照合データ4
照合データ5	照合データ5

カンマ区切りの場合のバーコードデータとデータNoの関係

データNo1 データNo2 データNo3

バーコードデータ: **1 2 3 4 5**, **6 7 8 9 0**, **1 2 3 4 5**, . . .

カンマ区切りの場合の照合データ設定

「データNo2」と設定した場合は次のようになります。

データNo1 データNo2 データNo3

バーコードコード: 1 2 3, **4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6**, 7 8

この場合の照合元データは、「4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6」になり、照合先において設定する照合先データと比較します。

4) 読取バーコードのユーザー定義

読取バーコードのユーザ定義は、ユーザ定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

＜第 1 読み取りコード＞, ＜第 2 読み取りコード＞, , ＜第 16 読み取りコード＞

■■■■■■■■■■ 【 読取バーコードのユーザー定義設定 】 ■■■■■■■■■■

BHT-BASICプログラミングマニュアル（BHT-800シリーズ用）より

■ 読み取りコード (BHT-800B)

読み取りコードには、共通商品コード（JAN, EAN, UPC）、インターリーブド2of5（ITF）、Codabar（NW7）、Code39、Code93、Code128、スタンダード2of5（STF）、RSS があります。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 (I T F)

書式： I [：「最小桁数」[-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



□ C o d a b a r (NW7)

書式： N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, C または D を指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 3 9

書式： M [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 9 3

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

書式: H [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

書式： R



■ 読み取りコード（BHT-800Q）

読み取りコードには、2DコードのQRコード，PDF417，MaxiCode，DataMatrix，EAN・UCC Compositeおよび共通商品コード（JAN，EAN，UPC），インターリーブド2of5（ITF），Codabar（NW7），Code39，Code93，Code128，RSS があります。

□ QRコード

書式： Q [: [シンボル種別 [最小コードバージョン] [-最大コードバージョン] [連結モード]]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロQR
M	QRモデル1
L	QRモデル2

シンボル種別を省略すると、マイクロQR，QRモデル1，QRモデル2を読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1～4	S
1～22	M
1～40	L

最小コードバージョン≤最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのQRコードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンのQRコードしか読み取れません。

連結モードにEを指定すると、最大16分割されたQRコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたQRコードシンボルの読み取りは禁止となります。



連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが2回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが1回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでないQRコードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を3秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、QRコード以外の読み取りは禁止となります。

□ P D F 4 1 7

書式： Y [: [シンボル種別]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロPDF417
M	PDF417

シンボル種別を省略すると、マイクロPDF417、PDF417を読むことができます。

□ M a x i C o d e

書式： X



□ Data Matrix

書式： Z [: [シンボル種別 [最小コード番号] [-最大コード番号]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形DataMatrix
R	長方形DataMatrix

シンボル種別を省略すると、正方形DataMatrix，長方形DataMatrixを読むことができます。

最小コード番号と最大コード番号は、読み取り可能なDataMatrixの最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
1 ~ 24	S
1 ~ 6	R

最小コード番号 ≤ 最大コード番号でなければなりません。

最小コード番号と最大コード番号の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までのDataMatrixを読み取ることができます。最大コード番号だけを省略すると、最小コード番号で指定したコード番号のDataMatrixしか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

正方形DataMatrix

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	10 X 10	7	22 X 22	13	44 X 44	19	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	14	48 X 48	20	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	15	52 X 62	21	104 X 104
4	16 X 16	10	32 X 32	16	64 X 64	22	120 X 120
5	18 X 18	11	36 X 36	17	75 X 72	23	132 X 132
6	20 X 20	12	40 X 40	18	80 X 80	24	144 X 144



長方形DataMatrix

コード 番号	ROW X COL	コード 番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

☐ EAN・UCC Composite

書式： V

共通商品コード、EAN-128、RSSのCompositeバーコードを読み取ることができます。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [:[コード] [1文字目 [2文字目]]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

☐ インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式： I [:[最小桁数 [-最大桁数]]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁



までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Codabar (NW7)

書式: N[:[**最小桁数**[-**最大桁数**]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式: M[:[**最小桁数**[-**最大桁数**]] [CD]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式: L[:[**最小桁数**[-**最大桁数**]]



最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ GS 1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [： [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

☐ GS1 DataBar (RSS)

書式： R

□ 多段コード読み取り

書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後続けて読み取るコードを指定します。段数は3段まで設定できます。

8. <1 段目読み取りコード>、<2 段目読み取りコード>、<3 段目読み取りコード>と設定してください。

多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード、インターリーブド of 25 (ITF), Codabar (NW7), Code 39, Code 93, Code 128です。

(1) 多段コード指定は1段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。

例：共通商品コードEAN-8とEAN-13の2段の場合

&. A:B. A:A

例：共通商品コードEAN-8を1段とCode 39を2段の場合

A: B, & M, M

2 段コードは最後に指定します。



- (2) 2次元コードと多段コードを同時に指定で指定することができます。
 例：QRコードとCode 39 3段の場合
 10桁のコードでCD付き」
Q, &, M, M, M
- (3) 多段コード指定では先頭の2文字を指定することで読み取り順序を指定することが可能です。
 例：ITF 3段（文字指定付き）次の順序で読み取る場合－「“12”で始まるコード」, 「“34”で始まる6～10桁のコードでCD付き」, 「“56”で始まる12桁のコード」
&, I::12, I:6-10C:34, I:12:56
- (4) コード種類が同じでデータも同じコードが含まれる場合は読み取りができません。
 1段目 EAN-13 4912345678901
 2段目 EAN-13 12000000000003
 3段目 EAN-13 4912345678901
 上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。
&, A:A49, A:A12, A:A49
- (5) コード種類、桁数、条件が同じ指定を1段読み取りと多段コード読み取りに指定した場合、1段コードは読み取りができません。
 1段コード EAN-13 4901234567894
 多段コード EAN-13 4909876543214
 EAN-13 12000000000003
 上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。
A:A49, &, A:A49, A:A12
- (5) 多段コード指定ではITFは4桁未満のものを読み取ることができません。ただし、桁数を指定した場合は読み取ることができます。
- (6) 共通商品コードのサプリメンタルコードの多段コード指定はできません。



5) 文字列表示マスターファイル

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字1～8文字＞. ＜拡張子（大文字半角英数字1～3文字）＞

（拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。）

フィールド情報は、下記の書式で入力してください。

＜検索キー桁数＞, ＜参照データ桁数＞ 設定桁数範囲：1 ～ 99

マスターファイルは、設定したファイル名で下記の2つのフィールドから成る固定長のテキストファイルを作成します、

1) データ]区分の文字列表示マスターファイル

検索キー	参照データ
入力データ	表示文字列

2) バーコード照合の文字列表示マスターファイル

検索キー	参照データ
照合元バーコード	表示文字列

アシストパックマネージャーの「マスターファイル作成／編集／転送」を使用してマスターファイルを作成して、BHT-900に転送してください。（「6. マスターファイル作成／送信」を参照）

2-3 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、「照合結果を保存する」をチェックしてください。

ここをクリック →

照合+数量 照合プログラム設定(BHT-800)

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル: SHOUGO.TXT 保存フィールド数: 7

保存条件: 照合OK/NG明細 タイムスタンプ: 日付+時刻

フィールド	設定	桁数	桁目から	桁
フィールド1	データ区分	1	4	桁
フィールド2	照合元バーコード	1	13	桁
フィールド3	照合先バーコード	1	13	桁
フィールド4	数量		4	桁
フィールド5	照合OK/NG			
フィールド6	照合日付			
フィールド7	照合時刻			

送信データレイアウト

データ区分	照合元バーコード	照合先バーコード	数量	照合OK/NG	照合日付
4	13	13	4	2	10

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 ＜大文字半角英数字1～8文字＞. ＜拡張子（大文字半角英数字1～3文字）＞ (拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大16フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK明細, 照合NG明細, 照合OK/NG明細は、照合OKまたは照合NGの場合に設定項目のデータを保存します。照合OKNGカウントは、1対N照合の照合元における照合OK数と照合NG数を保存します。
タイムスタンプ	なし, 日付, 時刻, 日付+時刻 から選択します。

■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、データ区分、データ区分マスター参照、照合元バーコード、照合元マスター参照、照合先バーコード、数量、照合OK数、照合NG数、照合日付、照合時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
データ区分マスター参照	データ区分において「文字列表示マスターファイル」を使用した場合に設定できます。
照合元バーコード	照合元において読み取ったバーコードデータ
照合元マスター参照	バーコード照合モードにおいて「文字列表示マスターファイル」を使用した場合に設定できます。
照合先バーコード	照合先において読み取ったバーコードデータ
数量	1～4桁（1対1照合において数量入力を設定した場合のみ）
照合OK数	1～4桁（1対N照合の場合のみ）
照合NG数	1～4桁（1対N照合の場合のみ）
照合日付	タイムスタンプで「日付」または「日付＋時刻」を選択した場合に設定できます。 YYYY/MM/DD（10桁）を保存します。
照合時刻	タイムスタンプで「時刻」または「日付＋時刻」を選択した場合に設定できます。 HH:MM;SS（8桁）

データ区分、データ区分マスター参照、照合元バーコード、照合元マスター参照、照合先バーコードの場合、保存するデータを先頭位置と桁数（保存桁数）で設定します。

フィールド1 桁目から 桁

上記の場合、データ区分の1桁目から16桁のデータを保存します。

「9999桁目から16桁」と設定した場合は、「末尾から16桁」のデータを保存します。



■ 送信データレイアウト

設定に対応した送信データレイアウト（各フィールドの桁数）を表示します。

送信データレイアウト					
データ区分	照合元バーコード	照合先バーコード	数量	照合OK/NG	照合日付
4	13	13	4	2	10

2-4 設定更新

「更新」をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

ここをクリック → 更新

データ区分

照合条件

データ保存

キャンセル

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル SHOUGO.TXT
 保存フィールド数 7

保存条件 照合OK/NG明細
 タイムスタンプ 日付+時刻

フィールド1	データ区分	1	桁目から	4	桁
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド3	照合先バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド4	数量			4	桁
フィールド5	照合OK/NG				
フィールド6	照合日付				
フィールド7	照合時刻				

送信データレイアウト

データ区分	照合元バーコード	照合先バーコード	数量	照合OK/NG	照合日付
4	13	13	4	2	10

2-5 業務更新

「アドイン照合+数量」を設定した業務設定を更新します。

業務設定(照合+数量サンプル.bnf)

☐ 新規作成
 ☐ 開く
 ☐ 保存
 ☐ 送信データ以外表示
 ☒ 業務設定送信
 ☐ 業務設定受信
 ☐ 閉じる
 ☐ 終了

☒ 業務追加
 ☒ 業務削除
 ☐ グループ項目追加
 ☒ グループ項目削除
 ☐ データ項目追加
 ☒ データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務名 照合+数量 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム プログラム名 CMPCN800.PD4

業務設定送信

ここをクリックする

通信ポート COM3 460800 bps

業務設定 送信

0%

中断

サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る M2 実行

業務設定受信

通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
2. CU-USB (460.8K)
3. Bluetooth

M1 戻る M2 選択

業務設定送信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB

通信ユニット
にセット

通信ポート COM3 460800 bps

業務設定 送信中

66%

中断

業務設定データ送信

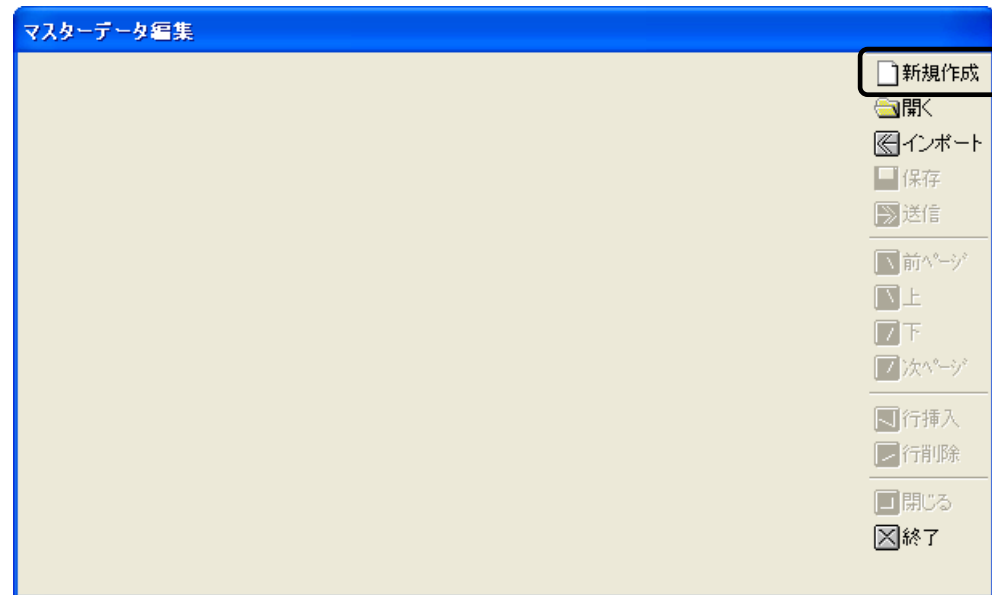
正常終了

OK

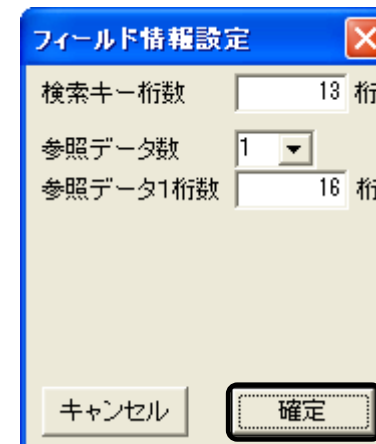


3 マスターファイル作成／送信

[マスターファイル作成/編集/転送] ボタンをクリックします。



新規作成



参照データ数を1にして、フィールド情報で設定した検索キー桁数と参照データ桁数を設定します。

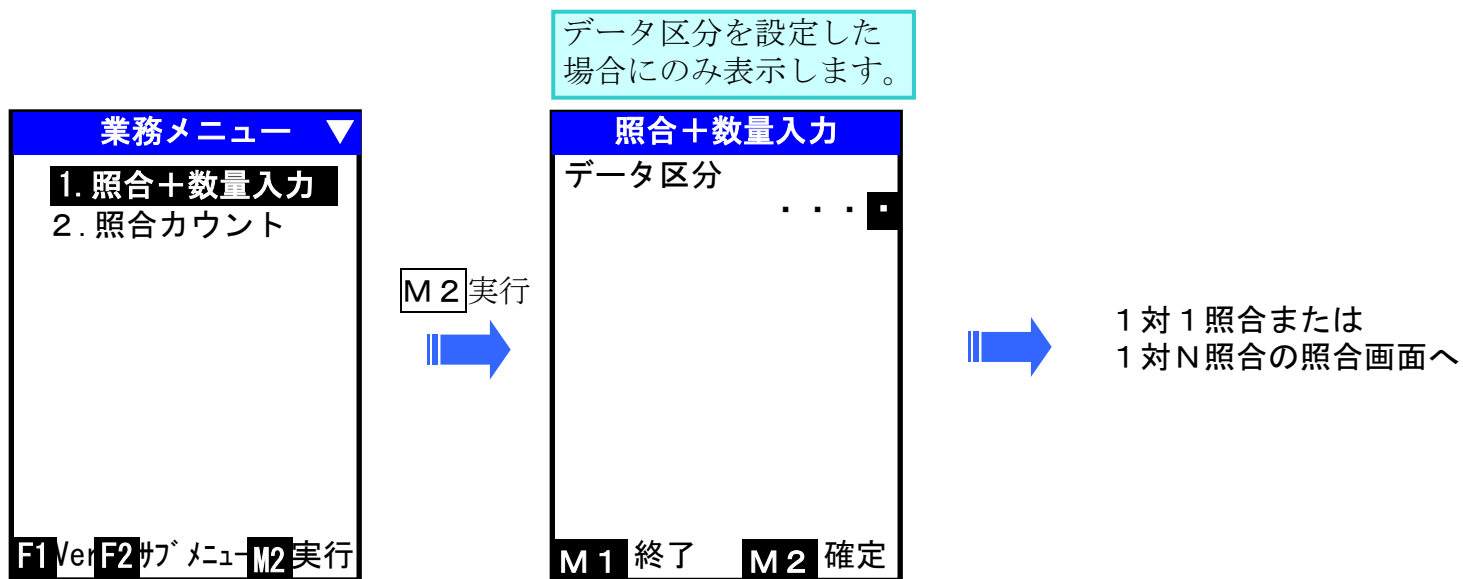


確定

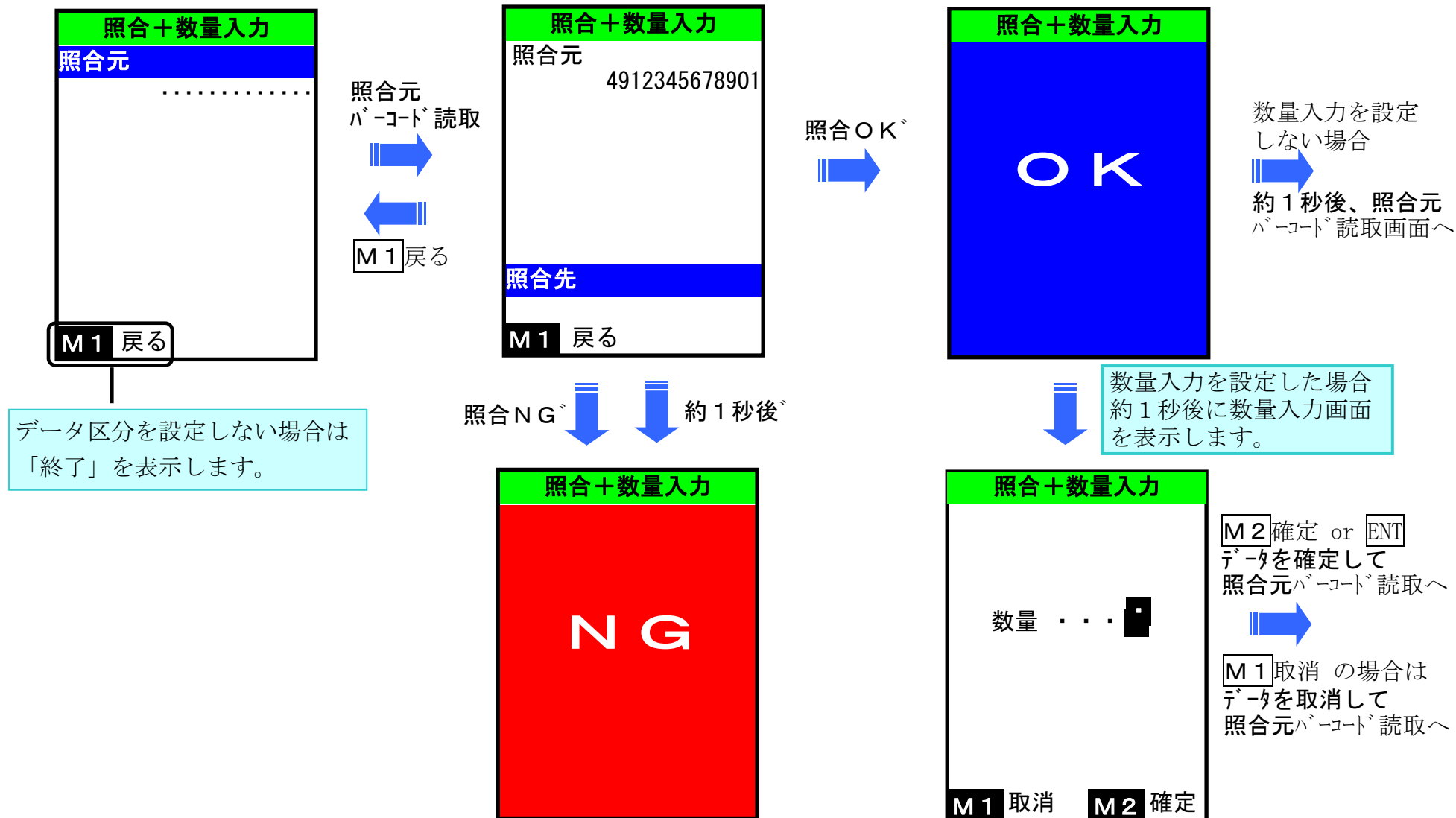
ASSIST

4 HTプログラム

[業務メニュー] から設定した項目を選択して、**M2**実行を押してください。



4-1 1対1照合



4-2 1対N照合

照合カウント	
照合元
M1 戻る	

照合元
バーコード読取



M1 戻る

照合OK数と照合NG数をクリア

照合カウント	
照合元	4912345678901
照合先	
照合数	9 9 9 9
M1 戻る	

照合OK



約1秒後

照合NG



約1秒後

照合カウント	
OK	
照合数	9 9 9 9

照合OK数+1

照合カウント	
NG	

照合NG数+1



4-3 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

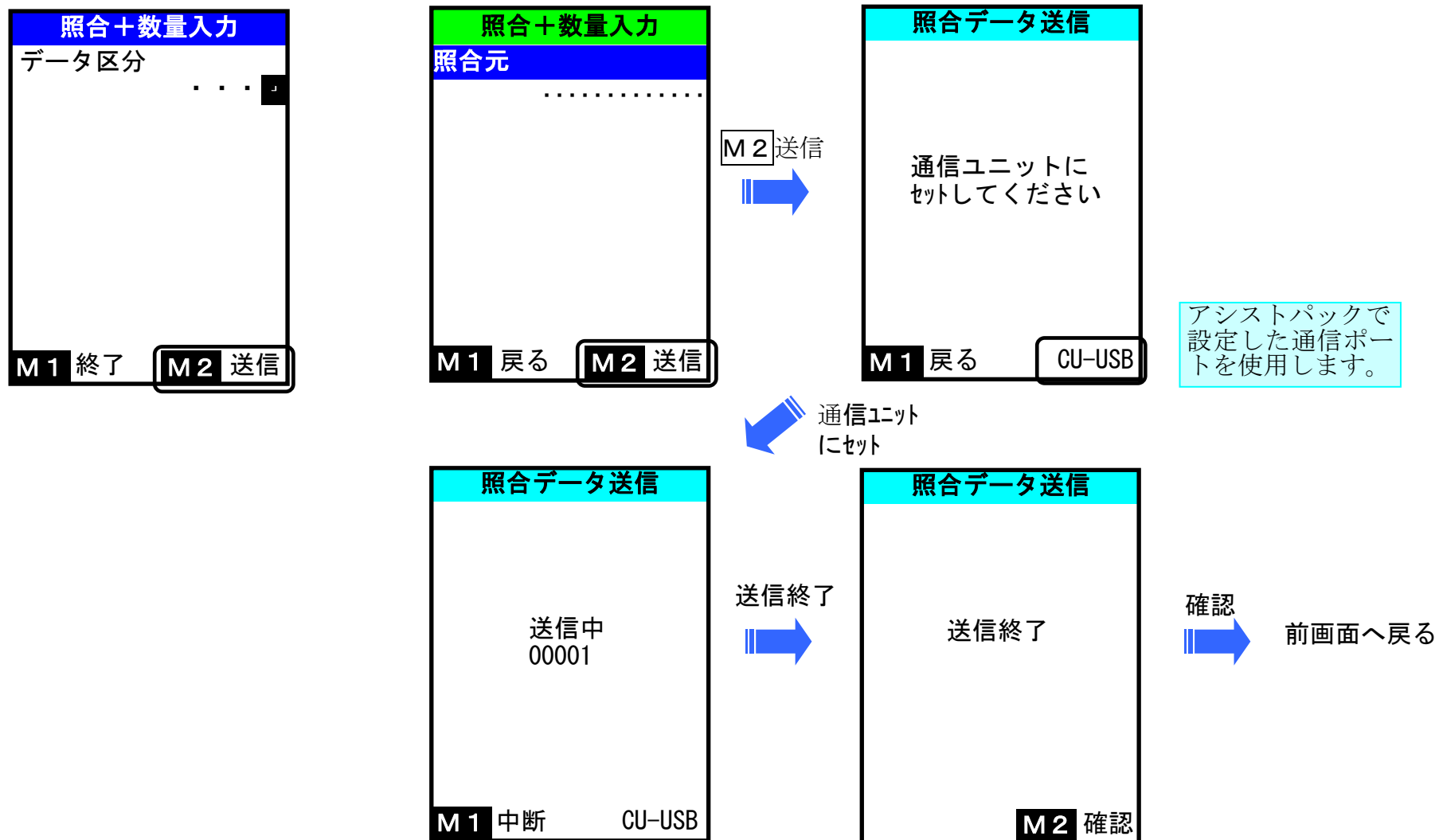
エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードに CODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコード データエラー	バーコード データエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR 記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
照合データエラー	照合データエラー	照合データを抽出できない場合に発生します。
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



4-4 照合データ送信

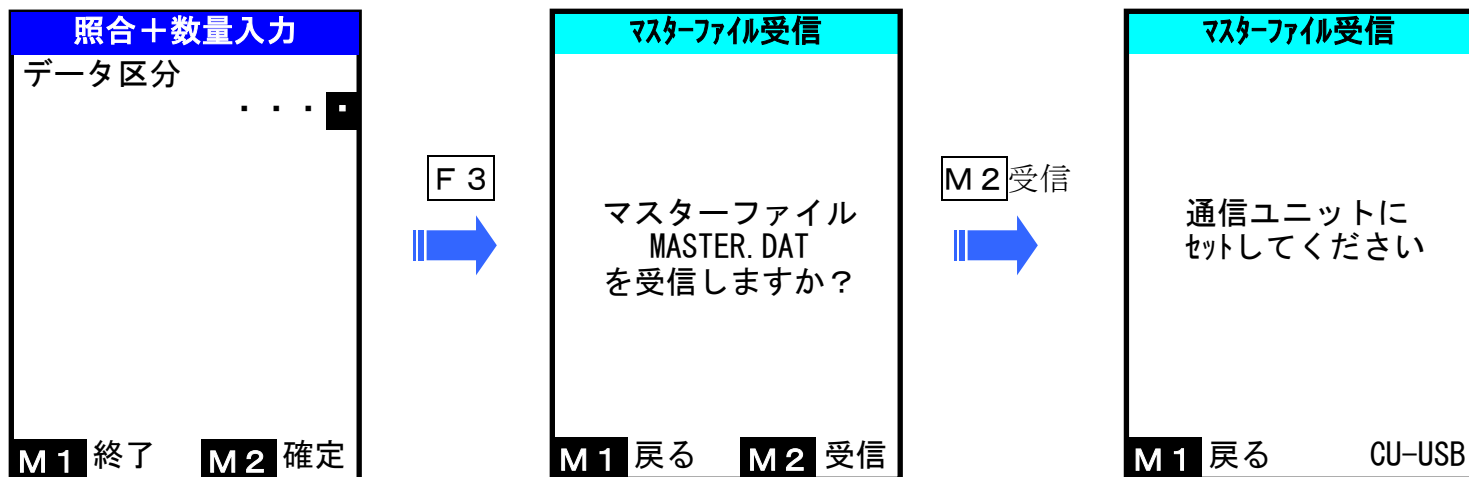
データ保存が設定されている場合、照合処理が終了すると、「データ区分入力画面」，「照合元バーコード読み取り」画面」の右下に **M2** 送信 を表示します。



4-5 マスターファイルダウンロード

データ区分の文字列表示マスターファイルと照合元の文字列表示マスターファイルがあります。

● データ区分の文字列表示マスターファイルの場合



● 照合元の文字列表示マスターファイルの場合

